



基調講演の様様



枝廣淳子氏 プロフィール

京都市生まれ。東京大学大学院教育心理学専攻修士課程修了。環境関係の通訳、翻訳、執筆および講演活動、コンサルティング等。日常の活動を通して得られる地球環境の現状や各地での動きなどに関する情報や知見をメールニュース等で広く提供している。

2002年8月、日本の環境情報を英語で世界に発信するジャパン・フォー・サステナビリティを立ち上げ、共同代表。

著書に「地球のセーターってなあに？」等。

## 基調講演

### テーマ「水は貴重な資源」講師 えだひろこ 枝廣淳子氏

#### 雨水も大切な資源。

「水の惑星」と呼ばれている地球。地球上には14億立方キロメートルの水があると言われており淡水はそのうち2.5%で、地下水や川など人間が実際に使うことのできるのは、わずか0.3%なのです。

このように地球上の水の量は限られています。だからこそ貴重な水を汚してはいけません。

東京都では、年間に使用する20億トンの水の多くを150キロも離れたダムから引いています。東京では年間25億トンの雨が降っており、雨水を有効活用する動きがあります。例えば、学校や家庭で、水道水を使う必要のないトイレなどでは、ためた雨水を使ったりしています。

また、国技館の地下には1,000トンの水がためられるタンクがあり、地震などの災害時の備えとして、3日分の水をまかなうことができます。

#### 身近な節水を今日から、はじめよう。

水はどんな使われ方をしているのか調査してみると、家庭が19%、工場が15%、田畑が66%となっていますが、最近では家庭での生活用水が特に増え、40年間で3倍にもなっています。その内訳は、風呂が26%、トイレが24%、炊事が22%、洗濯が20%、洗面が8%となっています。体を洗うときシャワーを止めるとか、トイレでの「大」「小」のレバーをしっかりと使い分けるなど、ひとりひとりが出来ることから習慣づける、今からはじめることが最も大切なことです。



#### 1日に食べている水は2,000リットル。

人間の体の60%は水でできています。人間が1日で飲んでいる水の量は約4リットルですが、「食べている水」について、考えてみたことはありますか？

米や小麦を作るにはその1,000倍の体積の水が必要です。また牛肉をつくるには7倍の穀物が必要なので、結局7,000倍の水が必要となることがわかります。

だから、人間が、1日に「食べている水」は2,000リットルにもなるのです。

食材の約60%を輸入している日本に住む私たちは外国の水を「食べている」のです。

#### 「自分一人くらい」という考えをなくす。

限られた水を有効に使い、地球を守るために一番大切なことは「自分一人くらい」という考えをなくすことです。あなたには「ちょっと」でも、みんなが同じことをすると、地球に大きな影響を与えます。また、自分たちで地球や水について調べ、声を上げることも大切です。たくさんの子供が声を上げれば、大人も考えざるを得ないからです。

これからも、水を守る取り組みを進めてもらいたいと思います。